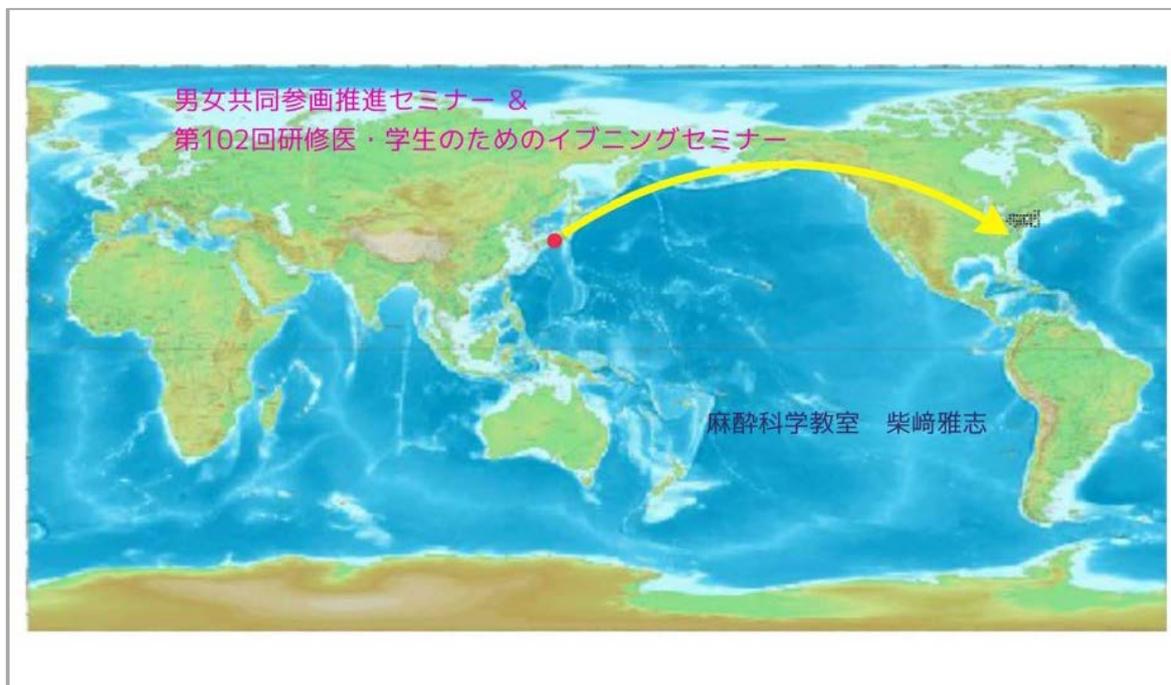


## 「ニューヨーク痛みの研究留学」

柴崎 雅志（京都府立医科大学麻酔科学 学内講師）



先程の話を聞きまして、金子先生は2児の母、牛込先生は3児の母、僕は4児の父になります。

ご覧頂いている画面は世界地図ですが、ぜひ皆さんにも世界を体験していただこうと思って今日はお話させていただきます。

私は牛込先生と同期ですが、京都府立医大を平成15年に卒業し、そのまま麻酔科に入局しました。入局半年後に一時出張しまして、大阪の大手前病院で研修医を終えました。

その後、1年間与謝の海病院に行きました。4年目に大学院に帰ってきて、痛みの研究、顕微鏡で写真を撮ったり、タンパク濃度を測ったりしました。卒業後、大学の手術室で勤務をしていましたが、佐和教授の下で第1号として、2012年にアメリカに留学させて頂きました。京都から、はるばるニューヨークに行ってきました。

普通は、留学先を必死に探さないといけないのですが、私は非常に幸運で、アメリカのラボで決まっていた人が急にキャンセルし、次に手を挙げた私に決まりました。一度、留学の話を家に持って帰りました。奥さんの「今行かないで、いつ行くの」という一言で、留学のお話を頂いた翌日、大学に返事をさせて頂きました。ですので留学先を決めるのに、そんなに苦労はしませんでした。

普通は留学先のラボまで行って、ボスと面談をするようですが、留学先のボスとの面談も、時間

が無かったため、Skypeで行いました。ですので、私が飛行機でアメリカに到着したのが、最初の訪米になります。ジョン・F・ケネディ空港に着いた後、空港からどのように出るのかわからないので、周囲に聞いてシャトルバスに乗りました。ここからが、サバイバルの始まりです。

シャトルバスに乗る時、「おまえはラッキーだ」と助手席に乗せてもらいました。景色がよかったです。ドライバーに降りる場所を聞き、知らない巨大な駅で降りました。自分の一時滞在先がわからないので、自分の拙い英語で周囲に聞きながら地下鉄に乗り、ジプシーバスという乗り合いのバスに乗り、なんとか一時滞在先に、着きました。

一時滞在先は日本からインターネットで探しました。見ず知らずのおばさんの家に部屋を間借りし、家賃のコストを削減して本格的に借りる家を探ことができました。この時は、単身で行ってました。

この写真が、私の留学していたコロンビア大学です。ほんとうにきれいな大学です。

ここからは、研究の難しいことではなく、僕の楽しい留学生生活をアルバムをめくるように、聞いて頂こうと思います。渡米して、次の日にラボのボスに会いに行きました。大学のIDカードを作成すると、シャトルバスに乗って橋を渡ることができます。コロンビア大学では、日本からの留学生も多く、歓迎会も開いて頂きました。

ラボに着くといきなり動物実験ができるわけではありません。動物の扱い方や薬品の扱い方のトレーニングコースを受けました。このコースに合格しないと実験できない仕組みになっています。知識の整理に非常に役立ちました。

麻醉科だけで研究発表するのですが、小さな地方会くらいの数の演題が出ます。それだけでアメリカの大きさを実感しました。

携帯の契約や水道・ガスの契約に、ソーシャル・セキュリティーナンバーの取得が必要ですので、それを取得しに行きました。休日はタイムズ・スクウェアやセントラルパークに行きました。また、ボスの家で研究室のメンバーとともにバーベキューをしました。

ボスからは1週間ボストンに行って、技術を学んでくるように言われました。そこで、神経細胞の培養の技術を学び、現在、大学院生と行っている研究に繋がっています。ボストンではクラムチャウダーやロブスターなど美味しいものも楽しみました。エーテルドームも見学しました。ボストンでの1週間の経験を、現在の大学での研究に活かしております。

日本に一時帰国した際、佐和先生に声をかけて頂き、京都府立医科大学麻醉科学教室でお話をさせて頂きました。

英語が、元々堪能ではないので、コロンビア大学で、有料なのですが、英語のコースを受けて勉

強もしました。英語の能力をブラッシュアップすることができました。

研究をしながら、日本では経験できない、楽しい思い出をつくることができました。

私の研究テーマは、ニューロパシックペインです。日本語では、神経障害性疼痛です。全人口の5%~10%が罹っている持続する痛みや感覚の錯覚の症状があります。その原因もトラウマや神経圧迫、糖尿病など多岐に渡っています。

私の研究テーマが、脊髄のマイクログリアという細胞が痛みにどのくらい関わっているかを調べています。赤く染まった細胞が本当に全部マイクログリアなのかも研究しています。これらの正体を今も探っています。

アメリカの実験室は新しく、まだ実験系が立ち上がっていなかったので、アメリカいる間に7つの実験系を立ち上げてきました。また、アメリカでは50人くらいの大人数でバーベキューをしたり、日本人のコミュニティをつくって楽しむことができました。

こちらは、大学院生と実験系を立ち上げたり、凍結ブロックをしている写真です。

皆さんも「留学」は、構えてしまうかもしれませんが、私のように何も考えず、とりあえず、行ってみて考えるのもよいのではないのでしょうか。